

◆国際・国内実践教育演習情報◆

今年で3度目となる大学院サステナビリティ教育プログラムの国際演習が、9月3日～11日にタイ・プーケットで行われます。

今年の参加者は11名。過去2年間は、①水田・農業グループ、②ゴミ・廃棄物グループ、③植林・緑化グループ、④カメ・生物保護グループの4グループに分かれていましたが、今回は過去の成果を参考に①津波災害グループ、②農業グループ、③むらのデザイン・景観グループの3つに統合し行われます。

長い様で短い約1週間の滞在で主体的な取り組みが出来るよう、今は事前学習の最中です。演習が初海外という学生も少なくありません。健康に気を付け、みんなで協力し楽しく有意義な演習をつくっていきます。

国内演習は来月末の9月28日～30日に大洗を中心に行われます。今年度の参加者は全4研究科から25名が集まりました。こちらは昨年度、①海/海岸グループ、②河川/湖沼グループの2グループだったものに、③防災グループが加わり、3つのテーマで演習に臨みます。

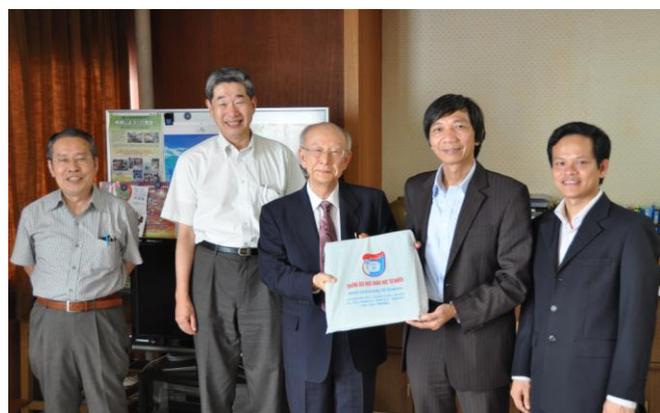
グループ分けも終わり1か月後の演習に向け、今後準備を進めていくこととなります。国内演習は国際演習よりも短い2泊3日の日程のため、事前学習がとても重要です。9月は大学が夏休みですが、参加者にとっては事前学習に、演習に、と忙しい1か月となりそうです。

◆ハノイ科学大より Cam 学長 Duc 准教授来訪◆

8月3日～6日の日程でハノイ科学大の Cam 学長と Duc 准教授が茨城大に訪問されました。

今後の共同研究や茨城大との連携に関しての打ち合わせに加え、水戸キャンパスにて行われたセミナーにて講演をして頂いたり、北茨城の海岸視察に行かれたりと、短い間の滞在でしたがとても精力的に行動されました。

来月には安原先生を研究代表者とする科研費チームでハノイ科学大で行われるワークショップと紅河流域の調査に参加します。また一層両大学の連携が進むこととなりそうです。



左から安原先生、三村先生、池田学長(茨城大)、Cam 学長、Duc 准教授

2011年度 ICAS カレンダー

4月	H23年度サステナプログラム履修登録開始 「茨城大学環境マネジメント計画」開始 4/19 茨城大学震災調査団中間報告会	10月	10/12 RECCA 気候変動対応合同シンポジウム 10/27, 28 アジア太平洋 Climate Change Adaptation Forum (バンコク) ベトナム WS: Dr. Trinh Van 来日
5月	5/25 国際、国内実践教育演習ガイダンス	11月	11/17-19 UN-CECAR シンポ(茨城) 学内ヒアリング 茨城県3者連携講演会
6月	6/1 東日本大震災調査報告会 6/4, 11, 18 サステナビリティ学入門 6/6 第1回運営委員会 6/10 SSC 理事会(北大) 6/11 SSC シンポ(北大)	12月	12/3・4 ISCIU7(茨城大学学生国際会議) 第3回運営委員会
7月	7/9, 16, 17 サステナ最前線講義 7/29 自然エネルギーWS 国際実践教育演習ガイダンス	1月	
8月	8/3 国内実践教育演習ガイダンス 8/3-6 ハノイ科学大より2先生来日	2月	
9月	9/3-11 国際実践教育演習(プーケット) 9/15, 16 土木学会地球環境シンポジウム(水戸キャンパス) 9/28-30 国内実践教育演習(大洗) ベトナム海外浸食調査 第2回運営委員会 ICAS年報2011発行	3月	ICAS 研究報告会 学生サステナフォーラム



*網掛けは ICAS が主催する企画です ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで icas@mx.ibaraki.ac.jp

◆サステナビリティ学入門・サステナ最前線講義◆

ICAS はサステナビリティ学教育の企画運営を行っています。6月に学部生向け教養科目「サステナビリティ学入門」(6/4、11,18)、7月に大学院サステナビリティ学教育プログラム「サステナビリティ学最前線」(7/9,16,17)が開講されました。

サステナビリティ学入門には、正規受講者38名の他、東北地方をはじめ学外の研究者なども参加しました。12名の講師の講義以外にも、ゲストによる東日本大震災の報告や、全体のパネルディスカッションなどを通じて、熱い議論が交わされました。

サステナビリティ学最前線は、大学院サステナビリティ学教育プログラムの基盤科目であるとともに、東京大学、京都大学、大阪大学、北海道大学との共通開講科目です。各大学から2名の講師を招いた英語の遠隔講義(5大学6キャンパス)に加えて、初日、2日目の5コマ目、3日目の午後3コマを使って学生はグループワークと発表を行います。

各講師に「あなたの考える持続可能な社会とは？」という共通の質問を投げかけ、それらを受けて学生がグループで自らのサステナビリティに関する意見を交わしました。今年で4年目(正規講義となってから3年目)となる本講義ですが、ディスカッションの時間を年々増やし、学生がサステナビリティ学の現状と課題、さらに自分自身の専門性との関係を議論しました。これまで以上に活気ある講義となりました。



◆島田コーディネーターのちょこっとコラム◆

防災・節電・自然エネルギー(+放射能)

先日、五霞町の社会福祉協議会が主催する“老人大学”に節電の講義を依頼され、行ってきました。防災・節電・自然エネルギー(+放射能)はその講義のテーマ。できる限り今の関心事にテーマを広げ、ICASや家庭、地域での活動の実践から学んだ体験をもとにお話をさせていただきました。

関心を持っていただけたのは、ゴーヤ茶づくりと放射能。私は、放射線の専門家ではないので、これまで、考え提案してきた粘土除去による除染や芝を活用した除染方法などを題材に、農地の除染についてこれまで調べて知っていることをお話ししてきました。

長い人生を生き抜いてきた五霞町内の各老人会推薦で参加してきた“選りすぐりの学生さん”方を相手に、防災や節電の大切さを語るのには、釈迦に説法ということで、省エネや節電の基礎知識と、お子さんやお孫さん達に是非、皆さんの知恵や体験を今こそもっと伝えてあげてみて下さいとお願いしてきました。

高齢者を中心とした皆さんに、何を話したらよいのだろうと当初色々迷いましたが、私自身が今直面しているたくさんの問題に、今ぶつかって悩みながら、少しだけ前に進んだことをお話しすることで何とか無事、老人大学の“先生”という大役を果たすことができました。

講座修了後、社会福祉協議会の担当者の方に

「この老人大学、2年間やっていますが今までで一番良かったです！！」

「眠っている方がいませんでした！！」

どうやら、どこの大学も同じなようです・・・・・・。

◆メンバー紹介◆

四戸 未来(しのへ みき)

ICAS水戸キャンパス

事務スタッフ



はじめまして。昨年の12月からICAS水戸キャンパスで、主に環境省S-8プロジェクトの事務を担当しています。

ICASでは先生方やスタッフの方々の、研究や仕事に対する熱心な姿勢に、毎日刺激を受けながら働いています。最近巷でもサステナビリティという言葉をよく耳にしますが、これは私たちの生活に密接に関わる重要なキーワードだと感じています。

サポート的な存在ではありますが、少しでも皆さんのお力になれるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

◆ICAS 緑のカーテン◆

前号でも紹介しました“緑のカーテン”が夏をまたいでグングン育っております。

あまりの猛暑に少し負けてしまいそうな株もありましたが、今回はカーテン用として植えて成長後収穫まで至ったキュウリとプチトマトの写真をお届けいたします。

日陰を作るという効果だけでなく、カーテンから野菜という実りも頂いたICASでした。



◆お知らせ◆

4月からWeb版となった『サステナ』は、既にご覧頂いておりますでしょうか。



冊子版も少しですがICAS事務局にご用意がありますので、配付をご希望の方はお問合わせ下さい。

Editor's Note

秋の気配を感じる気候になって参りました。ICASNEWSも来号よりリニューアルしたいと思っておりますので、ぜひご期待ください。



H・A